

広島市歯科医師会だより



Hiroshima City Dental Association

1月号

No.189 (R5.1.13)



行事報告

広島市歯科医師会クリスマスパーティー	1 ページ
第 5 回 支部長・副支部長会議	1 ページ

支部だより

南区支部	2 ページ
西区支部	3 ページ

会員ひろば

新入会員紹介	4 ページ
--------	-------

ちよっとイイ話

休日診療保険請求における留意事項について(総務部)	4 ページ
食育と口育の大切さ(学術部)	5 ページ
広島市における直面する「2025 問題」と「2040 問題」(地域歯科保健部)	6 ページ

各部からの報告

広島市医療安全推進協議会よりーこんな医療トラブルが起こっていますー(総務部)	7 ページ
令和 3 年度 学校保健統計 確報値 の公表について ～広島県の 12 歳児 DMFT は 0.5～(地域歯科保健部)	7 ページ
今月の知っておきたいこと(広報部)	8 ページ
FM ちゅーピー(広報部)	11 ページ
YouTube(広報部)	11 ページ
LINE 公式アカウント 友達募集	11 ページ

会長コラム『柔しく剛く』 年頭のご挨拶	12 ページ
---------------------	--------

新型コロナウイルス感染症対策、本会のこれまでの取り組み	13 ページ
-----------------------------	--------

12 月定例理事会報告	14 ページ
-------------	--------

行事報告

広島市歯科医師会クリスマスパーティー

日時：12月17日(土)午後6時

場所：ヒルトン広島 2階「太田川」

標記の行事が3年ぶりに開催された。コロナ禍により中止を余儀なくされていたが、今回は、令和4年9月1日に開業したばかりで、旧会館跡地に建設された「ヒルトン広島」で企画され、会員、家族、スタッフを含め想定を大きく上回る337人が出席した。

開催にあたり感染防止対策として、政府、および広島県が定めるガイドラインに沿って準備し、出席者にもマ

スク会食など協力を仰ぐ中、熊谷宏会長の挨拶に続き、RCCの横山雄二氏による軽妙なトークショーが行われた。そして川原正照顧問による乾杯の発声の後、美味しいフレンチ料理に舌鼓を打ちながら、お楽しみ抽選会が始まった。今回は例年以上の豪華景品が多数準備され、当たる度に歓声上がり会場は大いに沸いた。会員、スタッフの親睦がより深まり、成功裏に終わった。



(左)熊谷宏会長の挨拶(中央)横山雄二氏のトークショー(右)抽選会の様子

第5回 支部長・副支部長会議

日時：12月21日(水)午後7時30分

場所：広島市歯科医師会 2階「大会議室」

標記の会が開催された。執行部から熊谷宏会長、瓜生賢副会長、能美和基専務理事が出席した。始めに熊谷宏会長より「急に寒くなってきましたので皆様も体調の方ご留意ください。先週のクリスマスパーティーも盛況のうち無事終わることができました。本日も慎重審議のほどよろしく願いいたします」と挨拶があった。報告、協議事項は以下の通りである。

報告			
中区支部			
10月19日	第4回支部長・副支部長会	11月28日	東区地域保健対策協議会 第2回在宅医療・介護連携推進委員会
11月8日	中区支部秋期懇親会	//	東区地域保健対策協議会 第2回常任理事会
11月18日	吉島圏域多職種連携会議	12月10日	東区市民公開講座事前準備
12月5日	吉島圏域多職種連携会議小委員会	12月11日	東区市民公開講座
東区支部		南区支部	
10月19日	第4回支部長・副支部長会	10月19日	第4回支部長・副支部長会
10月21日	在宅医療研修会	10月24日	南区在宅医療・介護関係者研修会
10月28日	東区多職種情報交換会	11月9日	南区の在宅医療連携を考える研修会
11月21日	救急蘇生講習会	//	南区支部理事会

- 11月10日 宇品・似島包括圏域在宅医療・介護関係者研修会・連絡会
12月5日 南区支部理事会
12月9日 南区災害対策医療研修会

西区支部

- 10月19日 第4回支部長・副支部長会
10月26日 西区支部例会
10月27日 己斐・己斐上圏域第18回医療と介護に関する意見交換会
11月26日 西区市民公開講座
12月8日 在宅医療・介護連携西区地域保健対策協議会講演会

- 12月13日 中広圏域医療と介護の多職種連携研修会
12月15日 観音圏域観音認知症応援団

執行部

- ・日本歯科医師会会長予備選挙について
- ・年末休日診療について
- ・新年互礼会について

協議

中区

- ・マイナンバーカードによる医療機関を受診する患者について

支部だより

南区支部

令和4年度 南区在宅医療・介護関係者研修会 5 包括圏域合同研修会

日時：12月15日(木)午後6時30分

場所：南区役所別館 4階「大会議室」

標記の会が、広島市南区地域保健対策協議会主催で開催された。今回の研修会は「コロナウイルス感染症自宅療養者に対する訪問支援を考える」がテーマであった。南区の医師、歯科医師、薬剤師、訪問看護師、介護支援専門員、保健師等多職種が参加した。中川誠地域歯科保健部副委員長の開会挨拶の後、状況紹介として、コロナウイルス感染症の南区の現状の説明が、平本恵子広島市南保健センター長からあった。広島市の感染者への体制は、集約・分業型から委託・派遣型に変遷しており、自宅・施設療養者の対応は、相談センターなどで、オンライン診療を行い、訪問診療・看護にするか、直接診察・検査にするかを調整している説明があった。また、高齢者施設においては、保健センターの県クラスター班が施設対応して、入院調整をしている説明があった。次に自宅療養者への訪問支援の取り組み紹介があった。医療往診状況を、平賀正文平賀内科クリニック院長から、介護支援専門員による訪問支援を、荒井直之広島和光園居宅介護支援事業所介護支援専門員から、ヘルパーによる訪

問支援を、竹内貴章訪問介護事業所あす管理者から、紹介があった。やはり、ヘルパーによる訪問支援が一番大変で、感染者への訪問での感染のリスクが非常に高いことが問題である。そこで、訪問時スキルを学ぶということで、篠原久恵訪問看護ステーションレジハビ管理責任者より、感染予防のためのPPE(个人防护具)のレクチャーがあった。効果的なPPEの着脱を詳しい説明とマニュアル配布、そして実演があった。最後にグループワーク「コロナに負けず支援を続けるためにすべきこと」で話し合ったが、各グループともに、結論はなかなか発表できなかった。我々歯科医師はコロナウイルス感染症への訪問診療は、よほどの緊急性がない限り行うことはない。ヘルパーによる訪問支援が、時間も長く、接触も密なので、想像がつかないくらい大変なことに思えた。発表が終わり、時間(午後8時30分)となり、藤村憲崇南区医師会役員の閉会挨拶で研修終了した。なお、南区支部より竹田茂氏、中川誠氏、平井由美氏が参加した。



研修会の様子

西区支部

令和4年度 中広圏域 医療と介護の多職種連携研修会

日時：12月13日(火)午後6時30分

場所：Web開催

標記の会が、Webにて中広地域包括支援センター主催により開催された。

今回の議題は「在宅看取りの理解を深める」であり、中広圏域の医療と介護の関係者約70名が参加した。

新田哲也西区医師会理事による開会の挨拶の後、伊達修コールメディカルクリニック広島副院長先生より、「在宅看取りの実践に向けて学びましょう」の表題で、在宅看取りの現状と今後の課題について講義があった。

「在宅看取りのニーズについては、これからさらに増加すると予測されるが、単純に病院と比べ、在宅での看取りの方が良いとは言えない。私たちに必要なのは、『在宅』で過ごす選択肢を利用者に残すことであり、そのためには『ACP』が重要であり、家族に『どうしたいですか』と聞くのではなく、『本人だったら、どうしたいとお思いでしょうか』と患者本人の気持ちに寄り添った聞き方が、私たち看取りに関わる職種に求められている」と話された。

次に、平本愛訪問看護ステーションながさき看護師より、在宅看取りにおける多職種連携の重要性について講

義があった。「本人や家族の思いが統一していなければ在宅での看取りは難しく、思いを確認し合うことが求められる。また利用者の状態によっては、痛みが増強し家族が混乱することがあり、本人が望んでいない入院になってしまったケースもあり、こうしたことを防ぐには、積極的な情報交換により多職種でのチーム連携を深めながら、研修会(勉強会)などに参加し知識や技術を更新し、多職種の個々のコミュニケーション能力を高めることによって、チーム連携を行うことが重要である」と話された。

講演後、グループワークにおいて活発な意見交換が行われた。

最後に炭田知宜炭田内科胃腸科病院院長より「在宅看取りの患者は今後も増加すると見込まれるため、より一層の地域病院と在宅医療に関わる多職種間での連携強化が求められる」との総評後、閉会となった。

なお、西区支部からは、角田達彦氏、藤田友昭氏、八谷文貴氏が参加した。

観音認知症応援団

日時：12月15日(木)午後2時

場所：生協けんこうプラザ 5階「会議室」

標記の会が観音地域包括支援センター主催で、会場とリモート(Zoom)のハイブリッドで開催された。今回は「安心して、住み慣れた地域で暮らすために～お互いさまで支えあう観音～」と題し、事例をもとに当事者の思いやサービスの活用法などを話し合った。

開会に先立ち、中根育子観音地域包括支援センター職員から、観音圏域での認知症出現率が他地域より高いことや認知症の方の病院受診がなかなか繋がられない、関わり拒否等、観音の現状の話があった。

次に「アルツハイマー型認知症の方の支援」と題して

岡田眞理広島市西部認知症疾患医療センター看護師が講演を行った。アルツハイマー型認知症の病態の説明や認知症本人にも豊かな感情や自覚はあり、失敗した時、助けてもらった時の気持ちを考えた支援が大事と話した。

次にグループワークに移り、会場の6グループとオンラインの1グループで事例をもとに、日常生活でトラブルや失敗した時の認知症の方の気持ちを考え、参加者それぞれの立場で何ができるのか、また助けてもらって本人はどう感じるのかを話し合った。

その後、認知症カフェや高齢者地域支え合い事業について説明があり、開催時の様子や事業内容が示され、地域の社会資源の有効活用、声かけ・気くばり、早期発見・早期介入が大切と説明した。

最後に森永美佳西区地域支えあい課保健師からの閉会

の辞で終了した。

今回の観音認知症応援団は医師、歯科医師、介護職員、民生委員など会場44名、リモート6名が参加し、しばらく新型コロナ感染拡大でできなかった会場でのグループワークを行うことができ、有意義な会だった。

なお、西区支部からは田中信吾支部長、岡田浩幸氏が参加した。



講演会の様子

会員ひろば 新入会員紹介



浅川隆司

広島市歯科医師会会員の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度、広島市歯科医師会に入会させて頂きました浅川隆司と申します。

私は平成12年に広島大学を卒業後、広島大学大学院へ進学。歯科保存学第二教室と細菌学教室へ在籍させて頂き、平成16年に学位を取得致しました。大学院を卒業後は呉市の開業医へ4年間勤務させて頂いた後、平成20年より義父の田中久寿雄が開業しております西区の観音歯科医院にて勤務医として歯科診療に携わり、現在に至ります。

入会に際しましては、理事の先生方、近隣の先生方はじめ多くの先生方にご指導、ご助言を賜り、誠にありがとうございました。まだまだ未熟者ですので、先生方にはご迷惑をかけてしまう事もあるかもしれませんが、少しでも地域医療に貢献出来るよう努めて参りたいと存じます。今後ともご指導ご鞭撻の程、宜しく願い申し上げます。

ちょっとイイ話

耳寄り情報

総務部

休日診療保険請求における留意事項について

現在、休日診療保険請求のレセプトチェックは総務部が主体となって行っております。その際、間違いや気になった点を以下に記載しております。休日診療に出務する際の参考にさせていただけたら幸いです。

- ・前回来院日から5か月が経過しており、病態も異なるものであるのに初診料が算定されず、再診料の算定となっているものがありました。

・抜歯窩治癒不全病名で、再掻爬などの処置を行っているも算定がないものがありました。抜歯窩治癒不全病名で抜歯窩再掻爬手術を行った場合は130点の算定となります。また、抜歯後疼痛病名での抜歯窩再掻爬術を算定しているケースがありましたが、妥当ではありませんので、抜歯窩治癒不全病名でお願いします。

(森本 慎樹)

学術部

食育と口育の大切さ

最近子供の保護者の方から「歯並びを良くするためにはどうしたらよいか」とよく質問を受けるようになりました。乳歯う蝕の減少により、次に心配するのは歯が綺麗に並ぶかという事のようなのです。専門書によると口腔習癖がのちの歯列・咬合に関連しており、歯科医師として子供やその保護者にいかに寄り添って改善していくかが問われているようです。様々な考え方がありどれが正しいのかは、個人の判断に委ねることになりますが、今回は専門書を読み得られたことを紹介していきます。

保護者の方には、まず子供とのコミュニケーションについて指導します。この基礎がないと子供のために何をやっても積み重なっていかないことを確認することはとても大事です。これを保護者に伝えてから子供の食育、口育を開始していきます。

歯が生え始めた頃、何を保護者に指導するのかということですが、文献によれば、「1歳の段階で早期接触による顎位の偏位が起きる原因である口腔習癖がすでに始まっている」とあります。そのため乳歯のう蝕予防とともに「口腔機能発達不全症」と呼ばれる小児の口腔機能の低下の話とその予防について、早い段階からお伝えしていく方が良いと考えられています。具体的には「お口の健全な発達には、食べる、話す、息をする、この三つの機能が健全に備わる必要がある」と伝えるのと同時に「それを妨げている行動があれば早期に改善していく必要がある」とお伝えします。根気がいりますが逆に小児期のうちに、食事方法、姿勢、寝方、癖を改善し口腔習癖を取り除くことが早期にできれば、生涯にわたりその子供の口腔内を効果的に守れる「最高の予防処置」になるのではないかと考えられています。

食事方法に関してですが、文献に「子供はとても可愛く困っていたら助けてあげたい、危険があればその体験を避けさせ守ってあげたいという気持ちは親なら誰しもが思う感情です。しかし保護しすぎると、何もさせないということが正解になってしまう。貴重な経験を奪う、学ぶきっかけを奪うこととなります」とありました。

私が実際に接した親子には、子どもが食べやすいようにニンジンを細かく切ってあげている方がいました。食育の考えでは「2歳児にあげる時、切るなら二口サイズです」とあります。そうでないと子供は噛むことを覚え丸のみしてしまうそうです。こういったことをせっかく歯科健診に来てもらっているのだからできたら0歳から伝えていけたら、と思います。

他には最近の便利グッズについての指導があります。保護者が気に掛けなくてもいいような、倒れても飲み物が漏れないコップであったり、まだ首が座っていない段階でもお座りさせることのできる椅子も出てきています。これらを長期間使用することにより、子供の全身や歯列に悪影響が及ぼされるようです。すなわち、便利グッズの使用によってもともと備わるはずの「食べる」「話す」「息をする」という機能が十分に働かない状態になると、機能する中で本来は発達していく組織が弱体化します。これは成人になって歯列や全身に大きく影響していくでしょう。

子育てに絶対こうしないといけないということはないため画一的な指導は難しいですが、問題がある食事方法や習慣、グッズの使用について良い方向に少しでも保護者の方の意見が傾くよう支援できたらと考えます。

これからは予防の時代、乳幼児からの子供の健全な口腔育成は重要で、保険診療の医学管理の領域に「口腔機能発達不全症」の管理が入ってきたことがそれを裏付けています。とはいえ口育や食育をいかにして予防歯科に結び付けていくのかまだ確立されていないように思います。子供が十人十色なら保護者も十人十色で何が正解になるかはわかりません。だからやりがいがあるようにも思います。むし歯が減っていく中で、こどもの発達時期に見合った食育や口育の指導がスタッフとともにできるようになれば、今後の予防歯科に貢献できるようになるのではないかと感じています。

(参考文献)

厚労省ホームページ

：<https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/62-28.html>

：<https://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/information/dictionary/hale/ya-031.html>

日本歯科医学会誌 38(2019年3月)

：https://www.jads.jp/ijads_j/ijads_j_38_v01.pdf

：<https://www.icd-japan.gr.jp/pub/vol47/05-vol47.pdf>

：口腔習癖見逃してはいけない小児期のサイン(河井聡)

：月刊保団連 2022年12月特集「食べる」「話す」「息をする」が苦手な子供たち

口腔期の発達と育成支援

：0歳から始まる食育・予防歯科の実践(新井美紀・山中和代)

：MFTの基礎と臨床(上・下)

：中村学園大学・中村学園大学短期大学部 研究紀要 第52号 2020

幼児の構音機能と食べる機能との関連

坂本尚磨1) 森脇千夏1) 山川由莉1)

長光博史1) 古賀範雄2) 阿部志磨子1)

The Relationship of Functions Infant's Articulation and Eating.

Naoma Sakamoto 1) Chinatsu Moriwaki 1) Yuri Yamakawa 1)

Hiroshi Nagamitsu 1) Norio Koga 2) Shimako Abe 1)

モンゴルにおける食生活と歯科疾患

：国立モンゴル医学・科学大学歯学部 客員教授 岡崎好秀

92歳の現役保育士が伝えたい親子で幸せになる子育て

著書：小俣幼児生活団主任保育士 大川繁子

(山崎 利恵)

地域歯科保健部

広島市における直面する「2025問題」と「2040問題」

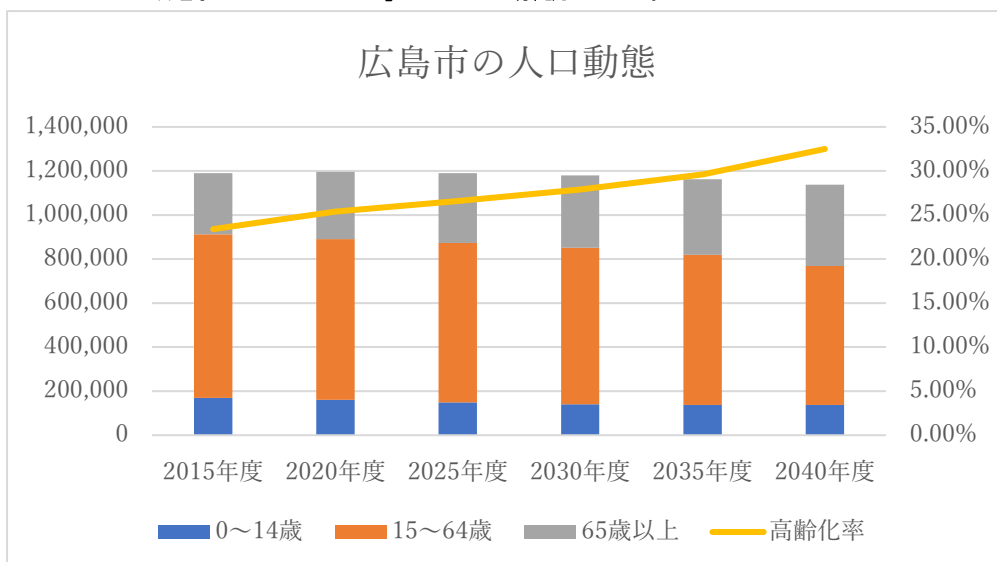
広島市の第8期高齢者施策によると、2020年度をピークに人口が減少していくことが予測されています。逆に、65歳以上の高齢者人口は、団塊の世代が後期高齢者(75歳)となる2025年度には、高齢者人口は約316,000人、高齢化率が25.6%に上昇し、団塊ジュニア世代が65歳以上となる2040年度には、高齢者人口は約369,000人、高齢化率が32.5%に上昇する見込みとなると言われています。

今後も高齢者を、20~64歳が支えていくと仮定すると、2020年度は高齢者1人に対して2.2人であるものが、2040年度には1.6人となり、いわゆる「騎馬戦型」から「肩車型」へと人口構造が変化していきます。

この高齢化は医療介護のみならず、経済等様々な分野に影響を与えます。

これを「2025問題」「2040問題」と呼び、広島市は「地域包括ケアシステムの確立」により医療・介護分野で、医師会、歯科医師会、薬剤師会等各団体を巻き込み、この問題に取り組もうとしています。

今回はその「地域包括ケアシステム」について解説します。



(藤田 友昭)

各部からの報告

総務部

広島市医療安全推進協議会より —こんな医療トラブルが起きています—

広島市医療安全支援センターに寄せられる苦情・相談の現状について具体的相談事例を報告します。なお、個人情報保護の観点から、相談者の個人特定が行われないように、相談内容に関しては、若干の修正を加えております。

事例1：義歯の治療について

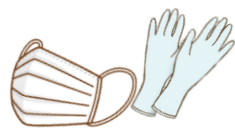
義歯を新製したが、装着しても落ちてしまう。半年は保険で義歯の作製ができないので様子を見るように言われたが、食事が十分取れないので困っている。

(センターの対応)

歯科医院で対応してもらえないとのことなので、歯科医師会に相談するよう、連絡先を教えた。

(コメント)

残存歯・顎堤・咬合等の理由から難易度の高い義歯である場合、その理由等を患者に十分に説明し、改善策を模索しましょう。また義歯用安定剤が効果を発揮する場合があります。患者さんに寄り添って対応するようにしましょう。



事例2：上顎洞炎

う蝕治療後に上顎洞炎を発症した。耳鼻科を受診しても治癒せず、耳鼻科の紹介で総合病院口腔外科を受診したところう蝕治療が原因と判明し、要手術となった。上顎洞の手術に関する費用を自分が負担するのは納得できない。

(センターの対応)

当センターで歯科医院に直接介入することは出来ないことを伝えた上で、調停機関の情報を提供した。

(コメント)

詳細は分かりませんが、治療を行うときはレントゲン検査など術前に必要な検査を行い、治療に対するリスクについても説明しておきましょう。またカルテの記載内容を充実させるなど術前・術後の記録をとりましょう。

地域歯科保健部

令和3年度 学校保健統計(確報値)の公表について ～広島県の12歳児 DMFT は 0.5～

文部科学省は、学校における幼児、児童及び生徒の発育及び健康の状態を明らかにすることを目的として、学校保健統計調査を昭和23年度より毎年実施している。令和4年11月30日に令和3年度学校保健統計の確定値が公表された。本調査は例年4月1日から6月30日までに実施される健康診断に基づき結果が公表されるが、昨年度に引き続き令和3年度についても新型コロナウイルス感染症の影響により健康診断を当該年度末まで実施することとなり、そのため調査期間も年度末まで延長されるという経緯があったことから、本集計結果は成長の著しい時期において測定時期を異にしたデータを集計したものとなっており、過去の数値と単純比較することは困難であることをご留意いただきたい。

中学校1年生のみを調査対象とする「永久歯の一人当たりの平均むし歯等数(12歳児 DMFT)」は、前年比0.7を下回る0.5となり、全国値0.63を下回った。これは、統計がある平成18年度以降では、平成29年度と並び過去最少となる。前年度より改善が認められたものの、前述のように例年と単純比較することはできないため、今後も注視する必要があると考えられる。(図1)

広島県内における学校種別う蝕被患率は、全ての校種において過去最少となったが、こちらも例年との単純比較は困難である。(図2)

年齢別のう歯被患率は、例年通りN字型を示しており、全国においては8歳、広島県においては9歳がピークとなっている。これは、乳歯から永久歯への交換期であるためと考えられる。昨年度に続き、今年度も全ての年齢で全国値を下回った。(図3)

歯肉炎の被患率は、例年同様に小学校高学年から急速に立ち上がり、全国値を上回った。中学校以降は全国値を上回る高水準で推移している。(図4 ※広島県の5歳児は未検出)

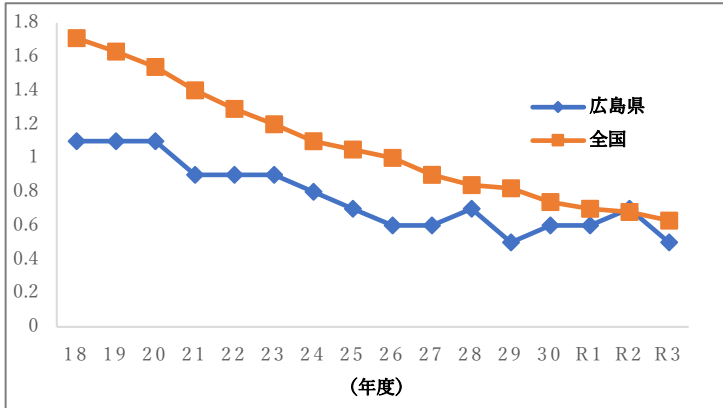


図1：12歳児 DMFT の年次推移

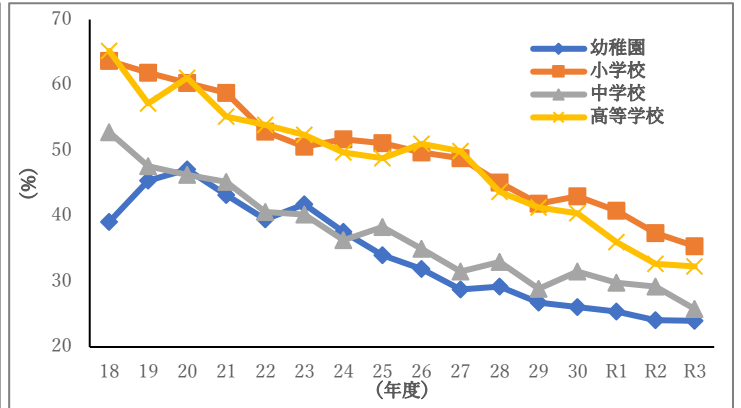


図2：広島県内における学校種別う歯被患率の年次推移

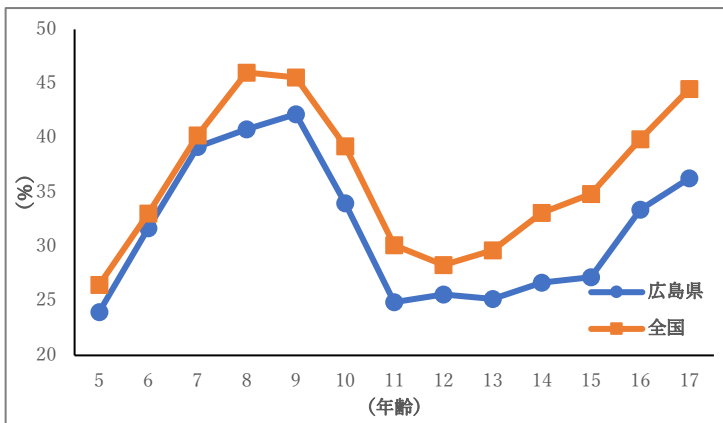


図3：う歯の被患率(年齢別全国との比較)

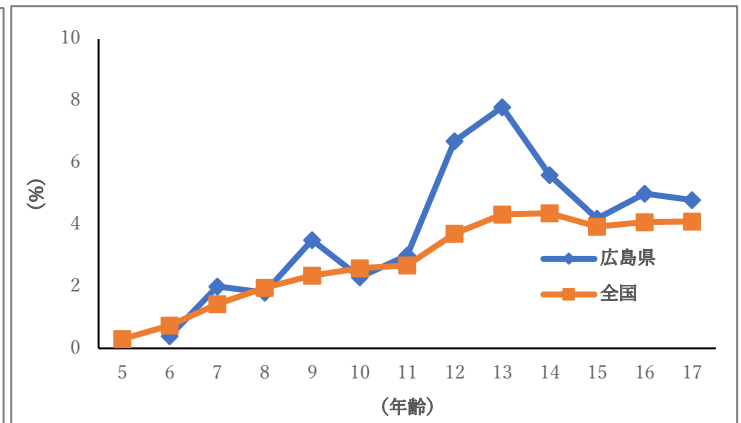


図4：歯肉炎の被患率(年齢別全国との比較)

広報部

記事の詳細確認は自己責任にてリンク先でお願いします。

最新記事はホームページにてご覧ください。各記事のQRコードをスマートフォン等で読み取っていただければ、該当記事のページにアクセスできます。(リンク切れはご容赦願います。)

今月の知っておきたいこと

▼オンライン資格確認の普及、医薬品の安定供給を目指し、各種加算を2023年4-12月の時限的に拡充へー中医協総会(1)

Gem Med (2022年12月22日)

<https://gemmed.ghc-j.com/?p=51703>

オンライン資格確認の導入・普及を促進するために、この10月(2022年10月)に新設されたばかりの【医療情報・システム基盤整備体制充実加算】について、▼点数の引き上げ▼再診時にも算定できる区分の新設▼オンライン請求要件の一部緩和一を時限的に行ってはどうか。

また、療養担当規則等の中で「来年4月(2023年4月)からオンライン資格確認等システムの導入を、原則として保険医療機関等で義務化する」こととされたが、オンライン資格確認等システムの導入に遅れもあることから、



地域医療提供体制に穴が開かないように「経過措置」を設けてはどうか。

医薬品の供給不安が長引く中で、医療現場の「医薬品確保、処方変更などの手間・負担」が増大している点を踏まえ、▼一般名処方加算▼後発医薬品の使用体制に関する加算▼調剤薬局の地域支援体制加算一について、時限的な増点を行ってはどうか。

12月21日に開催された中央社会保険医療協議会・総会で、こういった議論が行われました。支払側委員は「唐突である。患者に負担増を強いるべき筋合いのものではない」と難色を示していますが、同日の加藤勝信厚生労働大臣・鈴木俊一財務大臣による来年度(2023年度)予算案編成に関する折衝の中で「決定された」事項であること、医療現場への周知に力を入れるべきことなどから、

厚生労働省保険局医療課の眞鍋馨課長は「年内(2022年12月31日まで)の答申」を中医協に要請しています。

▼2022年11月の健康トピックス

medical-tribune (2022年12月17日)

[https://medical-](https://medical-tribune.co.jp/rensai/2022/1217548372/)

[tribune.co.jp/rensai/2022/1217548372/](https://medical-tribune.co.jp/rensai/2022/1217548372/)



2022年11月1~30日に各メディアで配信された健康情報のうち、「コレは押さえておきたい!」と考えたものを、独断と偏見でリストアップします。患者さんからの突然の質問に困らないよう、情報収集の一手として役立てていただくと幸いです。

ニュースピックアップ

▼小児の気管支喘息 コロナ前の4割

岡山分析、感染対策が影響か

山陽新聞 2022年12月3日

<https://www.sanyonews.jp/article/1337355/>

新型コロナウイルスの流行後、気管支喘息(ぜんそく)と診断される小児(15歳以下)患者が大幅に減少していることを、岡山大の研究グループが確認した。京都大と関わりがある企業から提供された医療データを分析。国内でコロナ感染が目立ち始めた2020年3月以降の月平均の患者数は295.5人で、それ以前の4割に減っていた。

◎研究を手がけた松本尚美助教によると、マスク着用などの新型コロナウイルスの感染対策の浸透で、呼吸器に影響するウイルス感染症にかかってしまう機会が減少したのではないかとのことです。



▼コロナ第8波懸念のなか「入荷ない」薬不足が深刻

THE SANKEI NEWS 2022年12月13日

<https://www.sankei.com/article/20221213-CVHBAONEANIN5ND2USLCEGY7TY/>

新型コロナウイルス感染拡大「第8波」の懸念が高まる中、需要が増大している解熱鎮痛薬などが全国的に不足している。需要増だけでなく、ジェネリック医薬品(後発薬)メーカーの不祥事に端を発した薬の供給不足もあり、後発薬では正常に流通しているものが全体の6割に減少

◎日本製薬団体連合会が発表した医療用医薬品の供給状況に関するメーカーなどへのアンケート結果では、医薬品1万1036品目のうち、1099品目が出荷停止、3135品目が全ての受注に対応できなくなる限定出荷の状況にあることが判明しました。後発薬でも多数の出荷停止や限定出荷となっており、供給不足は深刻化しています。



▼インフルで学級閉鎖、熊本県内2年9カ月ぶり 県感染症情報 コロナとの同時流行懸念

熊本日日新聞 2022年12月9日

<https://kumanichi.com/articles/881519>

11月28日~12月4日の熊本県感染症情報によると、県内80の定点医療機関からインフルエンザの患者が26人報告された。前週から20人以上増加。流行入りの基



▼「口腔機能低下症に関する基本的な考え方」を改訂 日本歯科医学会

WHITE CROSS (2022年12月14日)

<https://www.whitecross.co.jp/articles/view/2541>

日本歯科医学会は12月7日、「口腔機能低下症に関する基本的な考え方」を改訂。

口腔機能精密検査に関する記述が一部修正された。

出典: [口腔機能低下症に関する基本的な考え方【変更点見え消し版】](#) (日本歯科医学会)



準(80人)には達していないものの、新型コロナウイルスとの同時流行が懸念されており、県健康危機管理課は「基本的な感染対策は共通していて、徹底してほしい」と呼びかけている。

◎新型コロナウイルス感染拡大以降、季節性インフルエンザは流行していませんが、今年は同時流行の可能性があると見られます。感染対策に気を付けましょう。

▼長崎大病院、3度目誤抜歯で診療停止 報告も怠る

THE SANKEI NEWS 2022年12月6日

<https://www.sankei.com/article/20221206-1PJBZHWMFNZRIUBB3MBSEKPF4/>

長崎大病院は6日、口腔外科の歯科医師が予定とは別の「親知らず」を抜歯する医療事故があり、上司への報告も怠っていたと発表した。健康への影響はなかった。

◎長崎大では、令和2年12月、3年4月にも誤抜歯が起きており、口腔外科の診療を原則停止としました。病院によると、今年11月8日、患者の左上と左下の親知らずを抜く予定だったが、右下と左下を抜歯。患者は直後に部位が違うと指摘し、電話で説明を求めたそうです。対岸の火事ではないですね。



▼米 歯科大学の博物館 江戸~明治時代の日本の入れ歯など特別展

NHK NEWS WEB 2022年12月8日

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20221208/k10013916761000.html>

世界で最も古い歯科大学とされるアメリカ東部メリーランド州の大学に併設されている博物館で、江戸時代から明治時代にかけて日本で使われた入れ歯などの特別展が開かれ、西洋と比較する貴重な資料として注目されています。

◎記事ではかつての日本での木製義歯、西洋での象牙と、材料の違いに重きが置かれていますが、一番の違いである、吸着するかしないかには触れられていません。日本では古くから作られていた、吸着する義歯にもスポットライトを当ててほしいですね。



▼薬剤師の常駐義務を緩和、ロキソニンなどオンライン面談で販売可に…政府方針



yomiDr. 2022年12月19日

<https://yomidr.yomiuri.co.jp/article/20221218-OYT1T50174/>

政府は、副作用リスクの高い一般用医薬品の販売について、店舗における薬剤師の常駐義務を緩和する方針を固めた。テレビ電話やオンライン会議で薬剤師が面談することで販売を認める。都市部に偏在する薬剤師が遠隔で対応できれば、薬剤師不足に直面する地方などでも幅広い薬を購入できるようになり、働き方改革ともあいまって、地方に移住するハードルを下げる一つの要素になることが期待されている。

◎副作用のリスクが高いからこそ、販売する薬局などに薬剤師の常駐が義務付けられているため、オンラインに移行しても、適切な販売や、店舗在庫の厳格な管理が求められています。

▼紛争や災害で国内避難した人数が過去最多で支援呼びかけ 国連

NHK NEWS WEB 2022年12月9日

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20221209/k10013917731000.html>

世界各地の紛争や災害によって住まいを追われ国内で避難を強いられる人が過去最も多くなるとされる中、国連の開発機関で危機対応部門のトップを務める岡井局長はNHKの取材に対し、もはや短期的な人道支援では対応できず、避難先の社会に受け入れるための中長期的な施策が必要だとして、こうした国々への支援を呼びかけました。

◎このまま気候変動が進むと、2050年までに干ばつや海面上昇によって2億人以上が避難を強いられる可能性があります。避難先にいる人々に就職や教育の機会を提供し、政治への参加を保障するなど、中長期的な社会的施策が必要です。

▼子どもの弱視判定する「屈折検査」、3歳児健診で導入する自治体増加…早期発見が重要

yomiDr. 2022年12月12日

<https://yomidr.yomiuri.co.jp/article/20221211-OYT1T50135/>

視力の発達段階で弱視とわかれば、早い時期からの治療で矯正することが可能であることから、子どもの弱視の早期発見に有効な「屈折検査」を3歳児健診で導入する埼玉県内の自治体が増えている。

◎1,741全自治体に対して行われた3歳児健診における眼科健康診査の現状に関するアンケート調査の結果、広島県内では、2022年6月時点で17自治体(73.9%)において実施しているとの回答がありました。国は今年度から自治体の検査機器購入を支援しており、さらに4自治体(17.4%)が今年度中に実施予定となっています。

【参考】日本の眼科 93:9号(2022)

▼介護効率化へ新センター、人材確保・ICT導入を支援…全都道府県に新設へ

yomiDr. 2022年12月17日

https://yomidr.yomiuri.co.jp/article/20221217-OYT1T50133/?catname=news-kaietsu_news

https://yomidr.yomiuri.co.jp/article/20221217-OYT1T50133/?catname=news-kaietsu_news

厚生労働省は、介護現場の業務改善と人材確保を一体的に進める「介護生産性向上総合相談センター(仮称)」を全都道府県に新設する。

◎介護ロボットや見守りセンサーの導入のほか、食事の配膳など補助的な仕事を担う介護助手を活用するための相談に応じるワンストップの支援窓口として整備する計画で、介護される方も介護する側も少しでも負担なく生活できるよう、1日でも早く整備してほしいものです。

▼水俣病の健康調査 新たな検査方法を公表も住民からは憤りの声

yomiDr. 2022年12月17日

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20221217/k10013925751000.html>

水俣病をめぐる国が実施することになっている水俣湾周辺などの住民の健康調査について、環境省は16日夜、熊本県水俣市で住民説明会を開き、水銀の影響を調べる新たな検査方法を公表しました。

◎水俣病に関しては、2009年に成立した特別措置法で水俣湾周辺などの住民の健康調査を国が実施することが定められましたが、13年たった今も実施されていないため、いまだに被害を認められていない患者さんもいらっしゃるそうです。1日でも早く問題が解決することを願います。

▼「笑いヨガ」の健康効果に注目…腹筋を意識して手拍子しながら

「ホッホッ、ハハハ」

yomiDr. 2022年12月2日

https://yomidr.yomiuri.co.jp/article/20221130-OYT1T50198/?catname=news-kaietsu_news

笑いヨガの呼吸法を組み合わせた「笑いヨガ」。新型コロナウイルスの感染拡大で人との接触機会が減る中、その健康効果に注目が集まっている。笑いヨガの普及に努めている福島県立医大の大平哲也教授は、「コロナ禍で最近、笑う回数が減っている人は、ぜひやってみよう」と呼びかけている。

◎笑う動作を伴う運動療法は、うつ病、認知症、高血圧、糖尿病を改善する可能性があるとのこと。「ホッホッ、ハハハ、イエーイ！」。

▼太陽光パネルを戸建て住宅に義務化 東京都が全国初の条例を可決 「都民以外も負担」指摘する声も

TBS NEWS DIG 2022年12月15日

<https://newsdig.tbs.co.jp/articles/-/235385?display=1>

きょうの東京都議会。全国で初めて新築の一戸建て住宅に太陽光発電のパネル設置を義務化する条例が可決されました。かつて、環境大臣も務めた小池知事肝いりの政策です。

◎温室効果ガス減少には効果がありそうな政策ですが、負担増になって新築軒数が減ることのないようにしてほしいですね。



FM ラジオ「FM ちゅーピー76.6MHz」サイマルラジオ

「お口の健康広場デンタルパーク」 広島すまいるパフェ 第1・3水曜日午後0時50分から
1月4日放送分

「歯並びとかみ合わせ」

広島市歯科医師会 本川雅英氏

歯並びとかみ合わせが良くないと、歯やお口の健康に問題を起こしやすくなると広く知られています。それ以外にも顎の関節や胃腸、心理状態など、体の健康にも影響することがあります。今回は、歯並びとかみ合わせについて広島市歯科医師会の歯科医師、本川雅英さんが詳しく話します。

1月18日放送分

「酸蝕症について」

広島市歯科医師会 田中尊治氏

歯に穴が開いたり、歯の色が変わったりする原因は、虫歯だけではありません。お口の中が酸性になっている人は、「酸蝕(さんしょく)症」という疾患になるリスクが高くなります。重症になると、虫歯ではないのに、歯に穴が開くことがあります。今回は「酸蝕症」について、広島市歯科医師会の歯科医師、田中尊治さんが詳しく話します。

【公式】広島市歯科医師会広報 チャンネル
ぜひご視聴ください。チャンネル登録をお願いします。



11月2日放送分

「矯正治療って何をやるの」

広島市歯科医師会 土江雄治朗氏

<https://youtu.be/hzQ7QWA-f9w>



11月16日放送分

「とても大切 乳歯のお話」

広島市歯科医師会 岡田浩幸氏

<https://youtu.be/bXmgZVPV8Ao>



広島市歯科医師会は会員の皆様に対する情報提供の一助として会員専用のLINE公式アカウント(非公開)を開設しました。



LINE 公式アカウント
友達募集中!



「@698zzzkc」で検索

このアカウントは非公開のものです。
広島市歯科医師会会員にのみ配信します。会員のみ登録をお願いします。
登録後のウェルカムメッセージに会員氏名を必ず返信してください。

今までの配信内容

11月9日配信 オードリー・ヘップバーンの『ローマの休日』全編上映 ライブコンサートへのお誘い

新規登録時に 管理者側には登録した方の情報は届きません。必ず「自分の名前」「自分の診療所名」を下段のテキストボックスに入れて送信してください。

新年明けましておめでとうございます。

会員の先生方におかれましては、令和5年の新春をつつがなくお迎えになられたこと、心よりお慶び申し上げます。

新しい年、干支は癸卯(みずのと・う)です。

「癸」は十干の最後 10 番目であり、物事の終わりと始まりを意味する他、「揆(はかる)」という文字の一部であることから「種子が計ることができるほどの大きさになり、春の間近でつぼみが花開く直前である」という意味があると言われています。

また、十二支の「卯」はもともと「茂」という字が由来といわれ「春の訪れを感じる」という意味、また、「卯」という字の形が「門が開いている様子」を連想させることから「冬の門が開き、飛び出る」という意味があると言われています。

この 2 つの組み合わせである癸卯には、「これまでの努力が花開き、実り始めること」といった縁起のよさを表しているといえそうです。

卯年の本年、年男になられる会員の先生方が30名いらっしゃいます。36歳が4名、48歳が4名、60歳が9名、72歳が11名、84歳が1名、96歳が1名です。中でも、96歳の年男になられた森田眞先生におかれましては、どうぞご自愛くださいまして、これからはますますお元気でいていただきますよう会員を代表して心から祈念申し上げます。

ます。

さて、昨年もコロナに翻弄された1年でありました。秋口に第7波が収束するかと思われましたが、年末にかけて再度感染拡大が始まり、年始にかけて第8波といわれるようになりました。

そんな中、年末には勇気をもって3年ぶりのクリスマスパーティーをヒルトン広島において300名を超える皆さまのご参加のもと開催することができました。お開きのときの皆さまの楽しそうな笑顔を拝見して、「リスクをとって開催して良かった」と心から思いました。改めて計画立案してくれた厚生部の皆さん、そして準備にあたってくれた事務局の皆さん、そしてなによりもご参加頂いた皆さまに「ブラボー！」と申し上げます。

先日は、新年互礼会も開催することができました。感染状況を鑑み、今回も政治家の先生方へのご案内は控えての開催としました。そんな中、松井一寛広島市長にはご参加いただくことができました。松井市長には是非ともお越しいただきたいと思ったのにはいくつかの理由がありますが、その一つは一昨年に実施した「歯科診療所における口腔外バキューム整備促進事業」について、ご英断いただいた松井市長に感謝の思いを伝えることでした。

そもそも、発熱患者の内科受診を促進する目的で検討された

会長コラム (第42回)

柔しく剛く

年頭のご挨拶

熊谷 宏

事業に対して、厚かましくも、「歯科にもよこせ」「発熱患者の受診は条件にするな」という無理難題を申し上げたにも関わらず、「広島市民に安全安心な歯科治療を届ける」という我々の願いをご理解いただいたからこそ、本事業にゴーサインをいただきました。会員の皆さま方の前できちんとお礼ができたことは良かったと思っています。

早いもので、2期目の任期も残すところ半年となりました。会長就任時に掲げた3つの重点事項、1：学術団体としての基本に立ち返る学術研修活動の充実 2：会員診療所の経営安定に資する事業 3：会員相互の絆を深める共益事業の充実 に立ち返り、最後まで精一杯職務を全うしたいと考えております。先生方には、何卒ご理解ご協力のほどよろしく願いいたします。

結びに、広島市歯科医師会会員の先生方の今年一年のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

令和5年1月吉日

新型コロナウイルス感染症対策、本会のこれまでの取り組み

(2022年12月)

新型コロナウイルス感染症対策これまでの経緯(2022年12月1日～12月31日)

世界・日本での経過	2022年	広島市歯科医師会での対応
コロナ インフル同時検査キット薬剤師の販売・説明を義務づけ 国内累計感染者数 24,936,441人 世界累計感染者数 639,132,486人	12月1日	
新型コロナ新規感染者数 1週間平均全国 7週連続で増加傾向	12月2日	
コロナ致死率第7波は40歳以上で減少 高齢者の追加接種効果か	12月4日	
中国 北京などで感染対策さらに緩和も感染者数は高止まり	12月6日	
厚労省専門家会合 感染状況に地域差 置き換わりに注意	12月7日	
東京大学医科学研究所の河岡義裕特任教授らのグループ 新たな変異ウイルスに対する飲み薬効果確認	12月8日	
政府分科会 新型コロナの感染症法上の扱い 改めて議論へ	12月9日	
塩野義製薬 市販後調査の中間報告発表 新型コロナウイルス治療薬 重篤な副作用なし 1,000人超使用 国内累計感染者数 25,976,852人 世界累計感染者数 643,875,406人	12月10日	会員相談対応抗原検査キット配布
政府公表 オミクロン株対応ワクチン国内の接種率 25.5%	12月12日	
厚労省発表 新型コロナ飲み薬「ゾコーバ」処方できる医療機関拡大へ	12月13日	会員相談対応抗原検査キット配布
大阪大学などの調査 新型コロナ感染者 10日間の療養期間後も半数近くに症状	12月14日	会員相談対応抗原検査キット配布
東京都モニタリング会議 4週間後には1日3万人近く感染のおそれ	12月15日	
コロナ対策緩和の中国で感染拡大 日本人多い上海で警戒広がる	12月16日	
国立感染症研究所が効果を分析 オミクロン株対応ワクチン 発症防ぐ効果 71%	12月17日	
解熱鎮痛薬やせき止め 感染拡大で入手難しく 厚労省が供給支援	12月18日	
	12月19日	会員相談対応抗原検査キット配布
年末年始の新型コロナ対策 首相が全国知事会などに協力を要請 国内累計感染者数 27,400,629人 世界累計感染者数 650,034,843人	12月20日	会員相談対応抗原検査キット配布
厚労省 新型コロナ致死率「第7波」は「第5波」と比べ大幅減少	12月21日	
東京都 医療提供体制“最も深刻”警戒レベル引き上げ	12月22日	
厚労相 新型コロナウイルス感染症 感染症法上の位置づけ「状況見極め 見直し判断」	12月23日	
中国政府 新型コロナの感染者数や死者数の情報 発表取りやめ 新型コロナ再拡大で看護師などの感染増 医療ひっ迫の懸念も	12月25日	
	12月26日	三役会 会員相談対応抗原検査キット配布
名古屋工大研究グループ 新型コロナ 感染で心臓や血管の病気のリスク高まる	12月27日	コロナ感染対策特別委員会 定例理事会 会員相談対応抗原検査キット配布
	12月28日	会員相談対応抗原検査キット配布
中国 新型コロナ 北京や内陸部で重症患者増 医療ひっ迫深刻に 中国からの入国者 きょうから臨時水際措置 入国時に検査を実施 国内累計感染者数 29,131,060人 世界累計感染者数 658,908,677人	12月29日	
	12月30日	
国立感染症研究所など 新型コロナ 感染により抗体持つ人は3割弱 高齢者ほど低い結果	12月31日	

集計元情報：Johns Hopkins 大学、厚生労働省、各自治体 ※以前のは前号参照

12月定例理事会報告

「部外報告」

- 1 1 月 2 3 日 野間博先生叙勲受賞祝賀会
1 1 月 2 4 日 広島市保育園及び認定こども園保健功
労者表彰表彰式
〃 歯科医師国保組合理事会
1 2 月 2 日 社会保険診療報酬支払基金再審査
1 2 月 4 日 (県歯)口腔機能発達不全症・口腔機能
低下症講演会
1 2 月 8 日 (県歯)会員サポート室会議
1 2 月 9 日 歯科医師国保組合理事会
1 2 月 1 5 日 広島県国保連合会歯科再審査部会
1 2 月 1 6 日 広島県国保連合会歯科審査部会
2 0 日
1 2 月 1 6 日 社会保険診療報酬支払基金審査
2 1 日
1 2 月 1 8 日 (県歯)会員面談
1 2 月 2 1 日 ティーエスアルフレッサとの協議

(連盟関係)

- 1 2 月 2 3 日 ゆざき知事を囲む県政懇談勉強会

「総務関係」

- 1 1 月 2 4 日 令和4年度学校歯科医協議会
1 1 月 2 9 日 厚生部忘年会
1 2 月 1 6 日 地域歯科保健部忘年会
1 2 月 1 7 日 広島市歯科医師会クリスマスパーティー
1 2 月 1 9 日 会員面談
1 2 月 2 1 日 第5回支部長・副支部長会
1 2 月 2 2 日 広報部忘年会
1 2 月 2 6 日 上期決算報告・下期予想
〃 三役会
1 2 月 2 7 日 コロナ感染対策特別委員会
〃 定例理事会
〃 役員忘年会
1 2 月 2 8 日 仕事納め

(慶弔関係)

- 1 1 月 2 4 日 広島市保育園及び認定こども園保健功
労者表彰 中区支部 瓜生賢先生
1 1 月 2 5 日 広島県知事表彰
中区支部 大石正臣先生

(入会退会関係)

- 1 1 月 2 9 日 西区支部 浅川隆司先生 入会
1 2 月 5 日 入会後面談(浅川隆司先生)

(県歯理事会関係)

- 1 2 月 8 日 (県歯)理事会

(1) 総務部 (森本理事)

- 1 1 月 2 4 日 令和4年度学校歯科医協議会
1 1 月 2 9 日 休診レセプト点検
1 2 月 1 日 (県歯)保険部常任委員会
1 2 月 2 日 社会保険診療報酬支払基金再審査
1 2 月 5 日 入会後面談(浅川隆司先生)

(2) 学術部 (花岡理事)

- 1 2 月 9 日 定例委員会
1 2 月 1 7 日 広島市歯科医師会クリスマスパーティー

(3) 厚生部 (谷理事)

- 1 1 月 2 4 日 令和4年度学校歯科医協議会
1 2 月 1 4 日 新年互礼会打合せ
1 2 月 1 7 日 広島市歯科医師会クリスマスパーティー
1 2 月 1 9 日 定例委員会

(4) 地域歯科保健部

- 1 2 月 1 6 日 定例委員会
1 2 月 1 7 日 広島市歯科医師会クリスマスパーティー

<地域保健> (若林理事)

- 1 1 月 2 4 日 令和4年度学校歯科医協議会
〃 中区介護認定審査会
1 2 月 1 日 中区介護認定審査会
1 2 月 8 日 (県歯)広島県歯科保健実態調査委員会
〃 中区介護認定審査会
1 2 月 1 1 日 (県衛連)糖尿病医科歯科連携推進事業
研修会
1 2 月 1 4 日 (県歯)地域保健部常任委員会
1 2 月 1 5 日 中区介護認定審査会

<地域連携> (藤田理事)

- 1 1 月 2 4 日 西区介護認定審査会
〃 中広地域包括支援センター主催多職種
連携研修会事前打ち合わせ
1 1 月 3 0 日 (県衛連)「介護予防のための口腔機能
管理推進検討会議」第3回委員会
1 2 月 1 日 西区介護認定審査会
1 2 月 5 日 第2回西区在宅医療・介護連携推進委員会
1 2 月 7 日 令和4年度広島市在宅医療・介護連携
推進委員会 第2回「摂食嚥下・口腔
ケア対応力の向上に向けた多職種連携
の体制づくりの検討」専門委員会
1 2 月 8 日 西区介護認定審査会
〃 令和4年度在宅医療・介護連携西区地
域保健対策協議会講演会
1 2 月 9 日 地域ケアマネジメント会議マニュアル
作成検討委員会
1 2 月 1 3 日 中広地域包括支援センター主催多職種
連携研修会事前打ち合わせ
1 2 月 1 5 日 西区介護認定審査会

<学校保健> (石田理事)

- 1 1 月 2 4 日 令和4年度学校歯科医協議会
1 1 月 2 5 日 (県歯)「歯と口の健康診断パネル」
第2回修正委員会
1 2 月 2 日 広島市学校保健会会報編集委員会

(5) 広報部 (水内理事)

- 1 1 月 2 4 日 令和4年度学校歯科医協議会
1 2 月 2 日 校正委員会(だより12月号)
1 2 月 5 日 FMちゅーピー収録
1 2 月 1 7 日 広島市歯科医師会クリスマスパーティー

12月22日 情報調査委員会

FMちゅーピー (放送日)

- 1月4日 「歯並びとかみ合わせ」
広島市歯科医師会 本川雅英氏
- 1月18日 「酸蝕症について」
広島市歯科医師会 田中尊治氏

(6) 広島市歯科医師会ホームページについて

ホームページアクセス数
一般サイト 訪問者 1,356 (累計 120,402)
ページビュー 9,526 (累計 1,436,815)
会員サイト 訪問者 165 (累計 28,682)
ページビュー 1,678 (累計 280,198)
広報部 … Talking Heads<最新情報>
掲載件数 103 件(11/21~12/20)
LINE 公式アカウント 登録者数
12月22日 122名

(7) 特別委員会(選挙管理委員会)

12月27日 コロナ感染対策特別委員会

(8) 救急蘇生委員会

(9) 各部事業計画について

(10) 歯科医療安全相談

11月28日 相談 仮歯の痛みについて(男性)

「協議事項」

- (1) 入会について
現状確認
- (2) 会費について (2名)
開設者変更による会費額変更について2名承認。
- (3) クリスマスパティーについて
報告
- (4) 新年互礼会について
参加者数及び内容確認
- (5) カーブ観戦について
日程、観戦エリア協議、決定
- (6) 学校歯科保健対策事業について
寄贈品の承認
- (7) 日本歯科医師会会長予備選挙について
日程確認
- (8) その他

「その他」

特になし

会員の皆様へ

広島市歯科医師会だよりに関するご意見やお問い合わせは、各記事に担当部がある場合は、担当部の理事あてにお願いします。それ以外については、広島市歯科医師会事務局ないしは広報部担当理事水内裕之までお寄せ下さい。

広島市歯科医師会事務局 E-Mail: hirosshima@dentalpark.net
広報部担当理事 水内裕之 E-Mail: mizuuchi.shika@gmail.com

広島市歯科医師会ホームページ

<http://www.hirosshima-da.com/>

会員専用ページ

ユーザー名 : **Futaba**

本会PASS : **2622662**

協議会PASS : **welfare**

投稿記事締め切りは**毎月25日**です。

ご協力をお願いします。

事務局までメール(上記)投稿

お願いします。

広島市歯科医師会の住所及び連絡先

〒732-0057

広島市東区二葉の里3丁目2番4号

広島市歯科医師会 TEL : 082-262-2662

FAX : 082-262-2668

休日診療専用電話 TEL : 082-262-2672

